ある考えに対して、ちょっと違う考えをぶつけられれば、次の考えに進むことができます。矛盾をどうにかしようと思考を働かせられるのです。

日本語に従い、文を二つに分け、一つ目の文は「進むことができます」、二つ目の文は「働かせられるのです」を中心に、英語にしていきます。

A.　　ある考えに対して、ちょっと違う考えをぶつけられれば、次の考えに進むことができます。

まず中心となる文に取り組みます。

(A)　　次の考えに進むことができます。

「次の考えに進むことができます。」のさらに中心の述語の一部である「進む」に対しては、advance や step forward が浮かびますが、仮にそうした場合の主語になるであろう the next thought **「次の考え」**とのコロケーションが不安です。なので、自分が知っている表現に引き付けたいと思います。

慎重にイメージを浮かべてみると、「次の考えに進む」というのは、この文脈では**【今までにない考え方をする】**ということです。**【考え方をする】**とくれば、think を使いたくなりますが、**【今までにない】**を訳出することが難しくなりそうです。

そこで、**【今までにない】**のイメージをしっかり浮かべようと思いました。**【今までにない】**とは、**【昔には存在しない】**ということです。ということは**【現在には存在する】**というイメージですね。ここで new が使えそうだと思いました。そうすると、**【今までにない考え】**は、a new

idea で表せそうです。

全体的には、動詞表現を探している最中でした。なので、an idea とつながりがよさそうなものを探してみると、have an idea や get an idea が浮かびました。今回は、

- **S get an idea 「S は考えを得る」**

を利用します。

(1)　　S can get a new idea

【考える主体】は、相変わらず**【小学生】**です。they で通します。

(2)　　they can get a new idea

(B)　　ある考えに対して、ちょっと違う考えをぶつけられれば、

修飾語は、つなぎの表現から取り組むと便利なことが多いです。日本語において、つなぎの表現は後ろに来ることが多いのでそれに着目します。

(a)　　(S) (V) すれば、

そうすると、「れば、」がありました。

- **if (S)(V) 「もし(S)(V)するなら」**

を用意します。

(3)　　if (S)(V)

(b)　　ある考えに対して、ちょっと違う考えをぶつける

述語の「ぶつけられる」に取り組みます。能動態の「ぶつける」であっても、受験生がなかなか英語にできなさそうな表現ですね。なので、じっくりイメージを浮かべてみます。

「ぶつける」だけを見ると、**【衝突】**のイメージがしてきますが、実際には、「ある考え」だけをしている状態の中、「ちょっと違う考え」を導入して、その二つの**【差異や優劣を見る】**感じです。**【二つのものをそれぞれじっと見て、いろいろ考える】**イメージを浮かべて、それに該当する動詞表現を選んでみると、ちょっと難しいかもしれませんが、compare が浮かんできました！compare は,

- **S compare A with B「S は A を B と比べる」**

という使い方をしますよね。

(4)　　S compare A with B

【比べる主体】である S には引き続き**【小学生】**が入ります。they ですね。**【比べる二つのうち、より基準になるもの】**である A には「ある考え」に当たるものが入ります。an idea ですね。**【比べる二つのうち、基準と並べられるもの】**である B には「ちょっと違う考え」に当たる、a little different idea が入ります。

(5)　　they compare a new idea with a little different idea

idea が二つ表面上並んでいます。二番目のほうを one で表します。

(6)　　they compare a new idea with a little different one

(c)　　(a) + (b)

---

if (S)(V)の(S)(V)に(6)を入れます。

(7)　　if they compare a new idea with a little different one

(C)　　(A) + (B)

---

if (S)(V)のカタマリは、それが修飾する先である主節である(2) they can get a new idea の前に置いても後ろに置いてもかまいません。今回は前に置くことにします。カンマを忘れずに。

(8)　　if they compare a new idea with a little different one, they can get a new idea

これも並べてみると、idea が表面上並んでしまっています。懲りずに後に出ている idea を one にして出来上がりです！

(9)　　If they compare a new idea with a little different one, they can get a new one.

B.　　矛盾をどうにかしようと思考を働かせられるのです。

まず、日本語の述語になっている、「働かせられるのです。」に着目しました。

(A)　　思考を働かせられるのです。

さらに末尾に注目してみます。

(a)　　(S) (V) するのです。

「働かせられる」に「のです」が付くことにより、その前の文、今回で言うと「ある考えに対して、～進むことができます。」の説明をしている感じがします。前の文の理由を説明していると考え、

- **This is because (S)(V)「それは(S)(V)だからだ」**

を使うことも可能だと思います。また、何も挟まなくても、そのまま続けておくだけで、前の文を説明することもできます。今回は後者の選択肢をとることにします。ということで、ここでは、「矛盾を～働かせられる」を単独の文として英語にします。

(b)　　思考を働かせられる

そうすると、和文の述語は、「働かせられる」になります。「働く」は、

- **S work「S が働く」**

でぱっと出てくるのですが、「働かせられる」となると、

- **S make A DO「S は A に DO させる」**

あたりを使わなければなりません。そもそも **A thought** と **work** との

SV 関係の組み合わせが不安な中、それを利用した **S make a thought work** なら、なおさら不安が募ります。もっといい組み合わせがあるか、考えることもありですが、ここでは、「働かす」ではなく、もうちょっと範囲を広め、「思考を働かす」のイメージを浮かべ、切り取れる表現を探そうと思いました。

そうしたら、簡単でしたね。**【ん～】**となっている様子が浮かびました。何回もやってるように、

- **S think「S は考える」**

が使えそうです。**【考える主体】**である S には、引き続き**【小学生】**が入るので **they** にしておきます。「られる」も、

- **S can DO「S は DO できる」**

を利用して付け加えておきます。

(10)　　**they can think**

(c)　　(a) + (b)

(a) は表現しないことにしていましたよね。

(11)　　**they can think**

(B)　矛盾をどうにかしようと

修飾語はつなぎの語句からです。

(a)　DO しようと

日本語のつなぎの表現は後ろに来ることが多いので、それに着目すると、「・・・しようと」があります。ぱっとはそれに該当する表現が浮かびにくいかもしれません。そういった時の対応策として、**具体的に、それに当てはまる文を作っていき、そこからイメージを明瞭化する**という技術があります。やってみましょう。

「合格しようと、一生懸命勉強した」。「始発電車に乗ろうと、いつもより 2 時間早く起きた」。「海外旅行しようと、アルバイトでお金を貯めた」と並べていきます。もしかしたら、もう気づいたかもしれませんが、「合格する」「始発電車に乗る」「海外旅行する」は、それに続く文の内容をする目的になっています。**【目的】**をつなげる表現は、

- **in order to DO「DO するために」**

や、

- **so that (S)(V)「(S)(V)するために」**

です。どちらでもいいと思いますが、今回は前者を使います。

(12)　in order to DO

(b)　矛盾をどうにかする

DO に入る表現を探します。まず、「矛盾」ですが、前の文で、「ちょっと違う」ことが挙げられており、そこから生じる「矛盾」です。この場

合、contradiction まで表現してしまうと、「ちょっと」のニュアンスからずれてしまう可能性が出てくることに気が付いてしまいました。もしかしたら、contradiction でもいけるのかもしれませんが、difference くらいの表現を用意しておきます。また、**【前に挙げられている違い】**なので、the をつけておきます。

「どうにかする」は、それ自体ぱっと浮かばなそうです。が頑張って浮かべてみると、【解消する】イメージが見えてみました。

- **S solve A「S は A を解決する」**
- **S resolve A「S は A を解決する」**
- **S deal with A「S は A を扱う」**

などが候補として浮かんできますが、今回ばかりは根拠なく、最後の S deal with A を使いました。実際ネイティブチェックをかけてみると、resolve も solve も難しいようです。S deal with A は、たまたまいけていました。ほっと胸をなでおろすと同時に、いつまでたっても勉強が必要だと感じました。

(13)　　S deal with the difference

(c)　　(a) + (b)

---

(13)を(12)の in order to DO の DO に入れ込みます。

(14)　　in order to deal with the difference

(C)　　(A) + (B)

(B)の in order to DO のカタマリは、主節の前に置いても、後ろに置いてもかまいません。ここでは、後ろに置くことにしました。

(15)　　They can think in order to deal with the difference.

C.　　A. + B.

A.と B.の文を並べます。

(16)　If they compare a new idea with a little different one, they can get a new one.　They can think in order to deal with the difference.

Model Answer

If you can compare an idea with a little different one, you can get a new one.　You can think in order to deal with the difference.